



花が咲き 笑顔があふれ
歌声が流れる学校

岩沼北中学校 学校だより 第22号
令和3年3月9日 文責 教頭

巣立ちのとき ～夢に向かって大きく羽ばたけ！～

3月6日(土)、晴れやかな空のもと、第59回卒業式を挙行政いたしました。岩沼市長 菊地 啓夫様、教育長 百井 崇様、教育委員 氏家 真由美様にご臨席賜り、卒業生の門出をお祝いしました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、内容や方法を一部変更・縮小しての実施でしたが、卒業生一人一人に卒業証書を手渡しすることができました。卒業生を代表して さんが別れのことばを読み上げ、そして、卒業生77名が中学校を巣立っていきました。1・2年生の皆さんは、卒業式に立ち会うことができませんでしたので、「別れのことば」を掲載します。卒業生の思いや在校生へのメッセージをしっかりと受け止めてください。

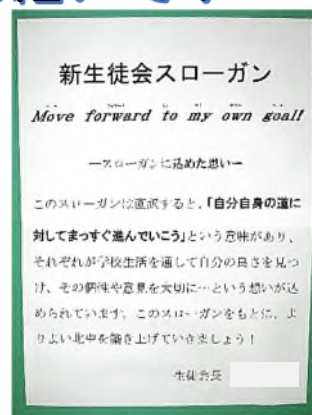


そして、バトンタッチ ～よき伝統を引き継いで！～

3年生からバトンを受け取った1・2年生の皆さん。今度は、皆さんが学校を引っ張っていく番です。先輩たちの学校への思い、築き上げてきた北中学校のよき伝統を受け継いで、さらに発展させていくのが皆さんに託された役割です。

生徒会のスローガン『Move forward to my own goal!』は、「生徒一人一人が学校生活を通して、自分の良さを見つけ、その個性や意見を大切にしていこう」という思いが込められています。スローガンのもと、よりよい北中を築き上げてほしいと思います。

来月には、新1年生が入学してきます。先輩として、後輩に中学校のよさを伝え、導いていけるように、しっかり準備していきましょう。



東日本大震災から10年

平成23年(2011年)3月11日(金)14時46分、東北地方太平洋沖地震(M9.0)が発生しました。この地震と津波に伴う一連の災害を「東日本大震災」と呼びます。あれから10年の月日がたちます。あの日の岩沼は震度6弱でした。先月13日深夜に発生した福島県沖の地震(M7.3)でも岩沼は震度6弱でしたが、しかし、地震のもつエネルギー量(マグニチュード)がまるで違いました。マグニチュードが1違うとエネルギーは約32倍になりますが、東北地方太平洋沖地震は、2月13日の地震の354倍のエネルギー量でした。そのために大きな被害が発生し、そして、大津波が襲来しました。当時、大変つらく悲しい思いをされたご家庭もあったかと思いますが、改めて、被害に遭われた皆様にお見舞申し上げます。

1・2年生は、当時3～4歳で、震災を体験はしているものの、はっきりとした記憶はあまりないかもしれません。ご家庭で震災について語り継ぎ、命を守る行動について話し合う機会にいただければと思います。

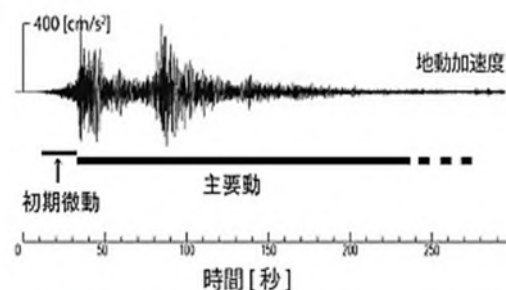


図3-18 石巻での2011年東北太平洋沖地震の強震計(加速度)記録(東京大学地震研究所ウェブサイトより)。約20秒の初期微動ののち、強い地震波が2回到来し、主要動は3分以上の長時間つづいた。

※地学団体研究会仙台支部編(2021)

「気分は宝さがし! せんだい地学ハイキング Ver.2」より抜粋

別れのこぼれ

陽射しが日々柔らかくなり、春の訪れを感じる季節となりました。芽吹きはじめた木々の緑に命の躍動を感じます。このような佳き日に、私たち三年生七十七名は、お世話になった方々に見守られながら、こうして卒業の日を迎えることができました。

本日は、多くの皆さまの祝福を受け、こうして卒業式を挙行していただけることに卒業生一同心より感謝申し上げます。

今、岩沼北中学校で過ごした日々を振り返ると、さまざまな思い出が蘇ります。

三年前の四月、着慣れないぶかぶかの制服に身を包み、この場所での入学式を迎えました。授業は難しいのだろうか、部活動にはついていけるだろうか……期待する反面、大きな不安も抱える私たちでしたが、春風に背中を押され中学校生活をスタートさせました。初めての中学校生活は新しい発見ばかり、毎日が驚きの連続でした。特に、部活動や行事で汗を流す先輩方の姿はとても格好良く、その姿を全力で追いかける日々でした。

初めての先輩ができ、「先輩」と呼ばれることにくすぐったさを感じた二年生。それでも、北中祭や職場体験学習などを通して、一步一步自立することを目指しました。部活動や生徒会活動では、先輩方とともに重要な役割を担うことが増えました。リードすることの難しさを感じながらも、自分たちの進むべき道を探り、切り拓いていきました。

ついに迎えた三年生。最高学年として盛り上げようと思気込んでいた北中祭、三年間の行事の中で最も楽しみにしていた修学旅行は、新型コロナウイルス感染症予防のため中止せざるを得ませんでした。しかし、先生方、そして多くの皆さまの尽力により、修学旅行は形を変え、合唱コンクールは万全の対策をしながら実現することができました。

松島への修学旅行。改めて宮城県の名所、松島の魅力を感じることができました。みんなではしゃいだ遊覧船での島めぐり。点在する島々の神秘的な姿に魅了されました。伊達政宗資料館では蠟人形と一緒に昔々タイムスリップ。円通院では庭園の美しさを味わうとともに、それを整備する仕事の大変さも学ぶことができました。自主研修ではバブニングもありましたが、自分たちで計画を立て、行動できたことは大きな自信となりました。「どこへ行くか」ではなく「誰と行くか」が大切なこと、短かい時間だからこそ、中身を濃くすることができると。多くの人の支えがあつて学校生活が送れること。たくさんの方の大切なことに気付くことができました。

十月に行われた合唱コンクール。例年と違い、課題曲のみの発表となりましたが、私たちは全力で取り組みまし

た。限られた練習時間の中で、何度も話し合い、教え合い、励まし合つて練習を重ねました。歌いながらみんなの心が一つになったと感じた瞬間、鳥肌がたったことも覚えています。クラス一丸となつて創り上げた合唱は、最高学年としての自信と誇りを表現することができたと思つています。

そして、私たちの側には、いつも支え、導いてくださる存在がありました。

先生方。いつも親身になり、私たちに寄り添っていてくださいました。一緒に悩み、励ましてくださり、時には叱咤激励してくださいました。また、私たちの好奇心をかき立て、学ぶことの大切さと喜びを教えてくださいました。先生方から教えていただいたことを胸に、これからも一步一步歩んでいきます。

ずっと見守ってくれた家族。私たちが充実した学校生活を送れたのは、紛れもなく家族のおかげです。時には、厳しいことを言われて悲しくなり、こっそり泣いた日もありました。しかし、その言葉をしっかりと受け止め、歩みを進めたからこそ成長できたことが、今なら分かります。本当にありがとうございます。これからも迷惑をかけると思いますが、困った時にはどうか力を貸してください。

在校生の皆さん。三年間はあつという間です。だからこそ、勉強や部活動はもちろん、学校生活の一瞬一瞬を大切にしたいと思つています。時には、壁にぶつかることもあるでしょう。しかし、どんな時も、多くの方が見守り、支えてくださっていることを忘れず、乗り越えていってください。これからも多くの人に応援していただける北中を目指して努力していつてほしいと願っています。

三年生の皆さん。このメンバーでなければ、私たちは心からの幸せを感じることはなかったかもしれません。悲しいときはともに涙を流し、嬉しいときは、自分のことのように喜び合いました。お互いを大切に思う気持ちがあつたからこそ、切磋琢磨し合い、今日まで歩んでくることができました。これからは別々の道を歩んでいきます。道の途中で悩むことや迷うこともあるでしょう。しかし、どんな時も、この岩沼北中学校で学んだことを胸に、周りの方への感謝の気持ちを忘れず、自分の夢に向かって歩いて行きます。

最後になりましたが、私たちのためにこのようなあたたかい卒業式を催してくださいました皆様に感謝するとともに、岩沼北中学校のますますの発展を祈念して別れの言葉と致します。

令和三年三月六日

第五十九回卒業生代表